

氏名	田村 俊行 <small>たむら としゆき</small>
学位の種類	博士(文学)
報告番号	甲第468号
学位授与年月日	2018年3月31日
学位授与の要件	学位規則(昭和28年4月1日 文部省令第9号) 第4条第1項該当
学位論文題目	19世紀イングランドにおける チャリティ病院のヴォランタ リズムー接触伝染病予防法を めぐる交付金の事例から
審査委員	(主査) 高林 陽展 (立教大学 大学院文学研究科准教授) 青木 康 (立教大学グローバル・ リベラルアーツ・プログラム 運営センター 特任教授) 永島 剛 (専修大学経済学部 教授)

I. 論文の内容の要旨

(1) 論文の構成

はじめに	2-3-1. 市民集会と地元住民の利害
序章	2-3-2. 病院再建後の財政構造
0-1. チャリティ病院の財源と「善意の経済」	2-4. 病院用地の獲得交渉
0-2. 伝統的な資源からの脱却：財源の多様化	2-4-1. 陸軍省の土地と譲渡の要求
0-3. 「薄められていない」ヴォランタリズム	2-4-2. 地元議員の仲介
0-4. 研究史とその問題点	2-4-3. 交換案と交渉の決裂
0-5. 課題設定とアプローチ	2-5. 病床の契約レートをめぐる交渉
第1章 港湾都市とチャリティ病院ーロイヤル・ポーツマス病院	2-5-1. 軍からの増床依頼
1-1. ポーツマスのチャリティ病院	2-5-2. 40ポンドをめぐる攻防
1-1-1. 海軍と陸軍のポーツマス	2-5-3. 病院経営と固定収入
1-1-2. ポーツマスにおける篤志病院運動	2-5-4. 病院経営戦略としての性病棟
1-1-3. ポーツマス病院の財政構造	第3章 性感染症の専門病院ーロンドン・ロック病院
1-2. ロイヤル・ポーツマス病院と海軍	3-1. 「善意の経済」の限界
1-2-1. 売春婦受け入れ協定の成立	3-1-1. ロック病院の財政構造
1-2-2. 伝染病法体制と性病棟部門の拡張	3-1-2. 移転問題と有価証券の売却
1-3. 公的資金とチャリティの自立性	3-1-3. 病院建築の構想と停滞
1-3-1. 「わずかな余り」をめぐる交渉	3-2. 売春婦医療政策とロック病院の利害
1-3-2. チャリティ部門の自立性	3-2-1. 売春婦をめぐる契約関係の構築
第2章 再建されたチャリティー聖バーソロミュー病院	3-2-2. 病院資産の増加
2-1. ロチェスターの聖バーソロミュー病院	3-2-3. 陸軍省との契約交渉
2-1-1. 病院ファンドの創設	3-3. ヴォランタリズムへの回帰
2-1-2. 財産の帰属をめぐる問題	3-3-1. 契約関係の終わりと財政の立て直し
2-2. 不健全運営批判	3-3-2. ヴォランタリズムの強調
2-2-1. チャリティ調査委員会による私的	終章
2-2-2. ロバート・ウィストンの告発本	4-1. 要点の整理
2-3. 地域に根差す病院として	4-2. チャリティ病院のヴォランタリズム
	4-3. チャリティと国家のあわい
	参考文献一覧

(2) 論文の内容要旨

19 世紀イングランドにおけるチャリティ病院の歴史的事態を明らかにする本論文では、まず序章で、ヴォランティアが支配的であり医療への国家の介入が限定的だったこと、すなわち「善意の経済」に基づく医療サービスの展開が当時のイングランドにおいて支配的だったことが概観される。次に、19 世紀後半になると様々な財源に依って立つ医療サービスが展開されたことを指摘し、国家と「善意の経済」のあいだで揺れ動くチャリティ病院の実態を明らかにする歴史学上の必要性を提起する。それは、19 世紀イングランドにおいてチャリティ病院は公的資金に頼らずヴォランティアを範とした運営を行っていたという通説が支配的であるとするプロチャスカやワディントンらによる慈善病院研究が先行研究として存在するためだということが指摘される。検討事例として具体的に取り上げられるのは、梅毒などの性病治療に関して陸海軍の公的資金を得ていたロイヤル・ポーツマス病院、ロチェスターの聖バーソロミュー病院、ロンドン・ロック病院の三つのチャリティ病院であり、それぞれ第 1 章から第 3 章で個別的に検討される。

第 1 章では、港湾都市ポーツマスのロイヤル・ポーツマス病院が人口の増加と住民の健康問題を背景として、19 世紀中葉にチャリティ病院の設立を推し進めるなかで、売春婦の性病治療を海軍から引き受けることで公的資金を得て、チャリティ病院の財政運営を安定化させたことが論じられる。その財政的な意義は大きく堅調な運営が可能となったこと、その一方で「善意の経済」だけでは地方都市は医療サービスを自立的に提供できなかったことが明らかにされる。

第 2 章では、19 世紀中葉のロチェスターにおいて、中世に起源をもちながらもその機能を長らく停止していたチャリティ病院、聖バーソロミュー病院が地域のための医療施設として再建される経過が検討される。この病院でも運営のための財源は不足しており、性病治療を引き受けることと引き換えに陸海軍から交付金を得ていたことが明らかとされる。また、聖バーソロミュー病院が、状況に応じて公的資金の獲得を戦略的に推し進め、ときに脅しを交えた陸海軍との交渉すら行っていたことが、一次史料から再現される。

第 3 章では、首都ロンドンで性病を専門に扱うロンドン・ロック病院において公的資金の獲得がどのような意味をもったのかが検討される。19 世紀前半から病院の移転問題が浮上し、そこで財政難を覚えた同病院は 19 世紀中葉になって海軍から交付金を得ることで難局を乗り越えようとする。ここでも、国からの交付金はチャリティ病院の財源として有効に機能したことが明らかとされる。しかし、1887 年に接触伝染病予防法の廃止とともに交付金が停止されると、公的資金への依存を諦め、「善意の経済」への回帰を余儀なくされる。

終章では、以上の三つの病院の事例を通じて、それぞれの公的資金の獲得・利用・依存のあり方が比較対照される。ロイヤル・ポーツマス病院では港湾都市の病院として海軍の結びつきを重視し継続的に交付金が利用されたこと、聖バーソロミュー病院では安定したチャリティ財源を背景として過度の依存なき交付金の獲得が目指されたこと、そしてロンドン・ロック病院では交付金は財政上大きな位置を占め、それ故交付金の停止後はそれに

替わる財源として寄付金の徴収という古典的な手法に回帰せざるを得なかったことが論じられる。最後に、近代イングランドにおけるチャリティ病院は、極めて柔軟に国家との関係を取り結び、ヴォランティアリズムと善意の経済に基づく医療のあり方を維持したことが結論される。

II. 論文審査の結果の要旨

(1) 論文の特徴

19世紀イングランドにおけるチャリティ病院について、過去の研究では、医療サービスの根幹を担う重要な事業として理解され、その運営原理としては善意の寄付に基づくヴォランティアが強調されてきた。すなわち、国家に対する民間の優越が強く論じられてきた。そのような研究状況に対して、本論文は、チャリティ病院と国家の関係を地方文書館の一次史料を駆使して検討し、港湾都市ポーツマスのロイヤル・ポーツマス病院、地方中核都市ロチェスターの聖バーソロミュー病院、首都ロンドンのロンドン・ロック病院の三つのチャリティ病院において、陸海軍の交付金がどのように獲得または利用されたかを詳細に明らかにする。より具体的には、本論文は、序章でチャリティ病院に関する予備的な情報の提供や研究史の整理を行い、続く第1章、第2章、第3章でそれぞれ上記のチャリティ病院の事例を検討する。そこでは、地域ないしチャリティ組織に固有の条件から公的資金の意義が認められ、その獲得や金額交渉、受給の停止をめぐる共通点と相違点が析出される。ポーツマスの事例では、港湾都市としての海軍との強い結びつきのため、国家からの交付金が継続的に受給されたこと、ロチェスターの事例では財源は比較的安定しており、それがゆえに国家からの交付金の獲得に際してチャリティ病院側はときに強硬な姿勢で臨んだこと、ロンドンの事例では、交付金が病院の財源上極めて重要な位置を占めており、その結果、交付金の停止に伴い任意の寄付への回帰が強力に行われたことが論じられている。

(2) 論文の評価

本論文は、チャリティから国家へと医療の担い手が徐々に変容する近代イングランドの具体的な社会的局面を説得的に明らかにしたことが特に評価できる。チャリティから国家への歴史的な変容は、社会政策史的な研究からすると、議会制定法を中心とした法制度の問題に還元されがちであり、チャリティ病院の自律的な役割は捨象されがちである。しかし、本論文では、それぞれのチャリティ病院の一次史料を地方文書館にて丁寧に収集し再構成することで、法制度形成の研究が明らかにしえない次元から、国家とチャリティの関係を照射することに成功している。本論文は、19世紀イングランドのチャリティ病院に関する一次史料に基づき、国家とチャリティの関係を具体的かつ根源的な水準から検討するものであり、今後の国家とチャリティの歴史、医療サービスの歴史、または近代的な統治のあり方に関する研究に貢献するものとして高く評価できる。ただし、当審査委員会は、以下の3点を今後の課題として指摘した。①関連分野や隣接領域の研究を精査し、本論文の位置づけをさらに明確にすること。②本論文が明らかにした事実の客観性を確固たるものとすべく、さらなる実証的な裏付け作業を試みること。③接触伝染病予防法のもとで公的資金を受給したチャリティ病院の特殊性と一般性を、他の事例も検討しつつ、さらに探究することである。